

環境研究総合推進費令和7年度事後評価個票

研究課題番号	2-2201
研究課題名	燃焼起源 SLCF の東アジア国別排出量の迅速把握と方法論構築
研究実施期間	2022 年度～2024 年度
研究代表機関名	国立環境研究所
研究代表者名	谷本 浩志

1. 評価結果

評価ランク：S

2. 委員の指摘及び提言概要

当研究課題の目的は燃焼起源 SLCF の東アジア国別排出量を迅速把握する方法論を構築することで、サブテーマ 1～3 のそれぞれで世界レベルの新たな知見が得られた。また、従来の中国の Black Carbon 排出量が過大評価であることを指摘し、その削減速度もシナリオよりも早いことを示した。最大排出国である中国における推計・検証が達成できたことは評価でき、かつ CMIP6 および CMIP7 排出量データとの比較により、気候モデル業界への影響も大きい。IPCC や北極評議会等にも貢献した。論文による知見発信、国民対話、国際リーダーシップの実施も活発である。2027 年 SLCF インベントリ方法論報告書へ向けて、日本の先導性の発揮を期待する。MRV 的推計方法を用いた方法論の精度については、後継の研究で更に高められることを期待する。開発した方法論は対話ツールになり、環境政策でのアジアを含めた国際的な対話の重要性は、今後増していくものと思われる。